

シグマ委員会核データ情報／評価専門部会
弹性・非弾性散乱 W.G. 第4回会合議事録

日 時 昭和45年5月20日(水) 13:00~17:00

場 所 原研本部第1会議室

出席者 村田, 金森, 山越, 神田, 松延, 中村, 五十嵐

1. 作業経過報告と資料の説明

各核種について担当者から説明があった。

i) U-235, -238 (村田)

U-235のデータは少い。fission の影響については不明

U-238の inela にある 65Ba の angle point が不明

データとして良いと思われるものは 63Sm, 66Ba, 65Ba, 66Ar

ii) Ni (金森)

natural データがほとんどで isotope ごとのデータはそれぞれ 1~4 位。著者の不明なものがある。

iii) Fe (山越)

isotope 別の所在図はない。文献が多いので図が錯そうする。

文献の内容を示す表とデータのグラフについて説明があった。

iv) Pu (松延)

文献数は少い。実験データの記述 (Format) に不明の点がある。

• Q-value の記述について、 $Q < Q_0$ の場合は Q に巾がある場合と同じに扱う。即ち $Q_1 = Q_0$, $-\Delta Q_1 = Q_0$ 。

Q-value が 6ヶ以上ある時は address no. (4, 5, 6) と (7, 8, 9) を使う。relative address 方式だから blank は前のデータが入るから注意すること。energy は MeV 単位。

$Q_1 + Q_2 + Q_3$ としている時のデータは $IQ = CVQV$ とし、 $Q_1, Q_2,$

Q_3 にデータを入れ、 X_1 にのみデータを入れる。 X_2 , X_3 は〇とおく。

V) Na, O (神田)

NEUDADA のコメントに不可解なものがある。

データのプロットは plotter でやりたい。

2. 作業のまとめについて

各人からいろいろのコメントが出た。

- review & interpretation の立場から、収集した data についてのコメントまで入れたまとめを第一段階にしてはどうか。
- コメントをつけることは困難である。コメントは計算との比較をした段階で行う方が良い。

まとめの principle については次回までに考えることとし、まとめる資料についてだけ決めておく。

I) 所在図, II) 文献の table, III) グラフ, IV) 文献の abstract

IV) の様式は五十嵐、神田が決めて知らせる。

3. 次回は 6月 23, 24 日を予定。集中作業をする。